

2月21日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウクライナ・クーデター10周年の関連で開催された会議で S.V.ラブロフ露外相が演説(2024年2月20日)

ウクライナは、ソ連とロシア帝国から最も豊かな産業のポテンシャルを受け取ったが、欧州の最貧国、誇張ではなく、滅びつつある領域に変わってしまった。ウクライナ当局はすでに世界公認の物乞いである。ウクライナに独立は残されていない。2014年2月のクーデター以前から、マイダンの頃から、あるいはさらに前から、大半の省庁(ウクライナ保安庁を含む)では米英の顧問が活動していた。今やこれは標準的な習慣で、誰も驚かない。陣取り、金が盗まれないよう監視しているが、着服は誰にも止められない。西側が我々の金を盗むというのに、ウクライナに提供した金を盗まないようウクライナに要求できるだろうか。自分の「道徳」原則に違反せず、先例を作らないよう上手くやる方法についてはすでにざっくばらんに議論されている。

これは西側に「媚び」、是が非でもその政治的・経済的座標軸に統合されたいという無鉄砲な願望がどのような結果をもたらすのかを示す鮮やかな例である。西側が我々に宣戦布告したことは疑うまでもない。相手はこれを隠していない。ウクライナに武器を与えているだけで、戦っているのはウクライナ自体だと言っている。これが嘘だということは誰もが理解している。

西側のインストラクターは、ウクライナ参謀本部の計画遂行を監視し、目標設定を支援し(我々はこれを100%確信している)、その他にも多くのことを担当している。我々のデータによると、欧州対外行動局はウクライナに対する勧告を作成したが、それによると、現在のウクライナが採用する戦法では勝てず、負けることが分かっている。したがって、ロシアの「心臓部」(欧州連合はそう表現している)に到達するべく、更に長距離の兵器をこの国に移転するという賭けに出る必要がある。これにより再び不安とパニックを引き起し、国民の信頼を損なおうというのである。これは戦争への直接参加ではないだろうか。当たり前だ。戦争で重要なのは戦略であり、それはウクライナではなく、遠く離れたところで立案されている。

欧州はロシアの敗北でこの事態を終わらせるために早急に策を講じようとしているが、本質的には米国の利益にかなうものであり、自国の利益など全く考えていない。欧州主要国の経済指標、マイナス成長、景気後退を見てみると良い。V.V.プーチン露大統領はこれについて詳細に発言している。きっとすべてが明らかになるだろう。こうしたことは屈辱的だが、文句無しで受け入れられている。誰も何も反論しないのだ。



https://www.facebook.com/story.php?story_fbid=719438290284384&id=100066546578635&mibextid=WC7FNe

②CIAの歌(投稿日:2024年2月12日)

今日もテレビは CIA
朝から晩まで CIA
NHK でも CIA
民放全部が CIA

ウヨもパヨクも CIA
与党野党も CIA
ネット民にも CIA
CEO にも CIA

日本全国 CIA
偉いあの人 CIA
賢いあの人 CIA
貴方も私も CIA

政府転覆 CIA
大量虐殺 CIA
冷酷非道な CIA
普通に暗殺 CIA

Switch ひとつで CIA
日本壊滅 CIA
米軍身分で CIA
破壊活動 CIA

消えて無くなれ CIA
消えて無くなれ CIA
消えて無くなれ CIA
消えて無くなれ CIA

<https://twitter.com/jucundioribus/status/1756820997943202056?s=09>

③CIA 分析官として 27 年間働いたレイ・マクガヴァンは、CIA 長官候補ジーナ・ハスペルの上院承認公聴会を妨害し、彼女の拷問監督に抗議した。警察は 78 歳の内部告発者を地面に投げ倒し、腕を脱臼させた(2024年2月18日)

※ツイッター・コメント:民主主義と自由。私たちが言ってほしいことを言う限り、この勇敢な男、レイ・マクガバンに神の祝福を。

※レイモンド・マクガバン(1939 年 8 月 25 日生まれ)は、アメリカの政治活動家であり、元中央情報局(CIA)職員である。1963 年から 1990 年まで CIA 分析官を務め、1980 年代には国家情報評価の議長を務め、大統領日

報を作成した。退職時に情報表彰メダルを授与されたが、2006年にCIAの拷問への関与に抗議するため返した。退職後の仕事としては、ロシア政府出資のRTやスプートニク・ニュースなどで、情報および外交政策問題についてコメントを発表。2003年にはVeteran Intelligence Professionals for Sanity(VIPS)を共同設立。

<https://youtu.be/CE1hT0koseg>



<https://twitter.com/taiyonoibiki/status/1758994781143978168?s=09>

④Sputnik 日本以外のメディアは、このデモを伝えたのか?(2024年2月19日)



⑤本日 2/19 は日ウクライナ復興会議が何故か極東の地・日本で行われます(2024年2月19日)

3年前まで縁もゆかりも無かった似非国家(独立戦争等で建立した国家では無く他国によって人工的に国境線を引かれただけの国モドキ)のウクライナに対して、最高約58兆円もの超巨額な支援を決定する方向の様ですが、、あのね、、これ、頭おかしいでしょ?

58 億円では無く、58 兆円ですよ？

日本人一人当たり約 50 万円もの血税が使われるってことですよ？

これ、日本国民にとって何かメリットってあると思いますか？

いや、全くありませんし、デメリットは膨大というレベルじゃ無いですよ？

増税は間違い無いでしょうからね。

しかも、一億歩譲って、支援金がウクライナ国民のために使われるならまだしも、それも無いと断言出来るレベルですからね。

簡単に言うと、そこには『利権』しかありません。

日本とウクライナとアメリカのごく僅かなグローバルリスト(政治家や企業)連中が儲けるための「支援金という名のマネロン」が行われるだけです。

そこにはキックバックでウハウハな某大統領や某首相もいるでしょう。

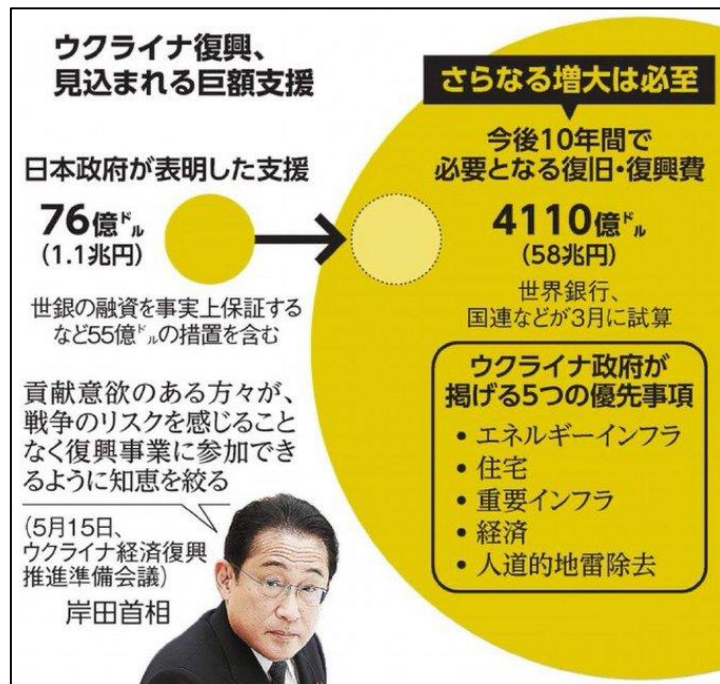
ウクライナ人の年金のためというのも嘘でしょうね。使っても僅かでしょう。

能登に金を出さない理由はまさにこれですね。

こんな大きなニュースなのにマスゴミは全くに近いと言っていいほど報道せず、「オータニサン！」のことばかり垂れ流し、更には同日に旧統一教会解散命令までブッキングするという手の込みよう…。復興会議が如何に隠したいニュースなのかが分かりますね。

とにかく、政府は国民を舐めています。

この件は親露派や親宇派とか関係なく、日本人なら絶対に許してはならないことです！！



<https://twitter.com/PoppinCoco/status/1759334751750779105>

⑥プーチン大統領がウクライナ侵攻を決断した理由 ストルテンベルグ NATO 事務総長 欧州議会(2023年9月7日)

<https://youtu.be/vaNsdG5Wtcg>

※あるツイッター・コメント:自分で何を言っているのかわかっているのだろうか。素直すぎてめちゃく

ちゃ面白いですね。



<https://www.youtube.com/watch?v=vaNsdG5Wtcg>

⑦【アヴデエフカRU地雷除去開始】(2024年2月19日)

ここから逃げるとき、ウクライナ軍は大量の地雷を仕掛けて行った。いきなり大爆発するやつだ。今、工兵部センターが、解放された町の幹線道路の地雷を除去している。原っぱの地雷を引き剥がすのは大変だった。

地雷の層が厚く、対戦車地雷、対人地雷、即席爆発装置が混ざっていたからだ。だから、気を付けて働かなければならなかった。

でも、神のご加護ですべてがうまくいった。私たちは死者を出さずにやり遂げた。

ここは、この地域で最も激しい戦闘があった場所だ。

通りからほとんど何も残っていないのが見えるだろう。ここにも対戦車地雷が仕掛けられた砂の丘があった。

<https://twitter.com/i/status/1759584792260305405>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1759584792260305405?s=09

⑧ラブロフ外相、EU の新たな制裁措置について(2024年2月20日)

EU が何を計画しているかについては何も考えていない。EU が自国民のためではなく、米国の反ロシアヒステリーに追随しているという事実、我々はもう長い間驚かなくなっている。米国は現在、このロシア恐怖症キャンペーンにおいて EU に優位性を譲っている。歴史はすべてを正しい方向に導くだろう。そして、EU 諸国の住民は、自分たちで結論を出し、自分たちが誰を権力の座に就かせたのか考えよう」

<https://twitter.com/i/status/1759791441495376124>



<https://twitter.com/tobimono2/status/1759791441495376124?s=09>

⑨ウクライナ軍、兵器不足で反攻息切れ…露軍の無人機・砲弾・銃弾はウクライナ軍の「10倍超」(読賣新聞オンライン、2024年2月21日)

[ウクライナ侵略2年]見えない出口<1>

ウクライナ南西部チェルノフチの国境警備隊は1月下旬の夜、国境から隣国のモルドバにひそかに渡り、徴兵を逃れようとした27歳と29歳の男を拘束した。

国境警備隊のイバン・アナニチェフ軍曹(21)は取材に、2人が「兵士になるために生まれたわけじゃない」と訴えていたことを明らかにした。

ウクライナはロシアの侵略に伴い18～60歳の男性の出国を原則禁じている。モルドバ、ルーマニアとの国境管理を担当するチェルノフチ国境警備隊は2022年2月の侵略開始後、4250人超の出国を阻止した。

昨年後半、徴兵年齢の引き下げが議論されるようになってから20歳代前半の拘束者が増えている。警備隊は無人機も投入して密出国の動きを監視する。

同時に出国を手助けする闇ビジネスが横行している。アナニチェフ氏が拘束した2人も「案内人」に1人8500ドル(約130万円)を支払ったが、「近くの村で車を降ろされ、手書きの地図を渡されただけだった」と嘆いていたという。

ウクライナでは侵略初期には、徴兵事務所に参戦志願者の行列ができたが、戦闘の長期化で状況は一変した。露軍との戦闘経験があるアナニチェフ氏は「戦争は誰だって怖い。戦ったことのない人が逃

げるのは許せない」と力を込めた。

参戦を尻込みさせる要因の一つが、ウクライナ軍の最前線での苦戦だ。

「8か月半で、我々の部隊が前進したのは、たったの100メートルだった」

東部ハルキウ州クピャンスク周辺での戦闘に昨年未まで参加していたウクライナ軍の兵士(25)は当時の様子を振り返った。

露軍の戦力は「兵力がウクライナ軍の約100倍、無人機や、砲弾、銃弾の数は10倍超」と感じたという。露軍は一帯を再び占領しようと、大量の戦力を投入していたのだ。「武器と弾薬がもう少しあれば状況は違った」と悔しがった。

ウクライナ軍が昨年実施した南・東部での大規模な反転攻勢は、露軍が地雷原などで重層的に構築した防衛線に手こずり、広範な領土奪還に失敗した。

昨年秋頃からは、米欧諸国からの砲弾や弾薬の提供も減り始めた。ロシアは17日、ウクライナが防衛拠点にしてきた東部ドネツク州アウディーイウカの全域制圧を宣言した。戦況はロシア有利に傾く。

今月8日、ウクライナ軍の総司令官に就任したアレクサンドル・シルスキー氏は最近のドイツ公共放送の取材に「露軍が全ての前線で進軍している」と認め、「我々は攻勢から防衛に転じた」とも明言した。ウォロディミル・ゼレンスキー大統領は昨年12月、露軍の占領地域拡大を阻むため、防衛線強化を命じた。今年は戦力再建を重視し、25年に大規模な反転攻勢に再び着手する青写真を描いているとされる。

ウクライナの調査研究機関「キーウ国際社会学研究所」が今月、実施した世論調査では「ウクライナが向かっている方向は正しいか」を尋ねた質問に、46%が「正しくない」と回答し、「正しい」(44%)を上回った。結束で試練を乗り越えてきたウクライナは再び忍耐力を試されている。

24日でロシアによるウクライナ侵略の開始から2年となる。侵略3年目に入るウクライナ情勢を展望する。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/9c13094ecfce610ba57a6561ebc3ef8cd5af9e61/images/000>